

## 認定看護管理者、 認知症看護認定看護師 合格！

H28年度岡山県看護協会ですべて初めて開催された認定看護管理者教育過程サードレベル研修を受講する機会を頂きました。

150時間(31日間)の研修を終え、認定看護管理者認定試験に合格することができました。

研修では、2025年問題に焦点があてられ、政策、経営、組織といった観点から管理者としてのあるべき姿を模索し、管理者は、経営的な視点を持ち、創造的に組織を発展させることが必要であるということ学びました。看護管理者には、医療の高度化や社会・経済情勢の変化、2年毎の診療報酬改定を踏まえた対応が求められます。当院を取り巻く環境や自施設の現状をしっかりと把握し、急性期看護の役割を意識し、地域や在宅を見据えた看護が提供できるようなマネジメントをしていきたいと思えます。

又、看護管理者が向き合う倫理課題について学びました。

質の高い看護実践ができるように、倫理課題にしっかりと向き合う為には、看護の現場が見える看護管理者でありたいと思えます。

認定看護管理者  
病棟師長: 杉 敏子



認知症看護認定看護師教育課程で約7ヶ月間学び、5月に認定看護師審査に合格し、認知症看護認定看護師となることができました。認知症看護を学ぶ中で、これまでの自分の看護を振り返るとともに、認知症を持っている人を人として尊重することが認知症を持つ人を看護する上でとても大切なことだと再確認しました。

現在、高齢で認知症を持つ入院患者さんは増加しています。認知症を持つ高齢者が病気になった時、安心して入院できる治療環境を提供することを目的に、今年2月に院内に多職種による認知症ケアサポートチームを立ち上げました。人生の大先輩方が対象なので多職種で多方面から観ていくことの大切さを痛感しています。看護師が認知症を持つ人を看護する喜びを感じてくれるようなサポートができるよう認知症看護認定看護師として頑張っていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

認知症看護認定看護師  
副看護部長: 小幡 陽子



### 『フットケア 外来』 はじめました

フットケアとは、足の手入れ法であり、高齢者・糖尿病患者のQOLを向上するために、大変重要なものです。高齢者の増加、糖尿病患者の増加に比例し、合併症を発症する糖尿病患者さんが増えています。ウオの目・たこ・靴擦れといったほんの些細な事から足潰瘍・足切断に至ることのないよう、当院でもフットケアチームを立ち上げ5月からフットケア外来を開始しています。

フットケア外来では、糖尿病看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師が医師と連携し患者さんの診療にあたっています。担当当科は心臓血管外科・循環器内科ですが、その他にも足病変に関係する領域として、形成外科、整形外科、糖尿病内科、皮膚科、腎臓内科、リハビリなど多科にわたります。

治療だけでなく患者さん自身が足病変に早期に気づき、予防できるようセルフケア指導を行っています。患者さんやご家族の意向を聴き一緒に足の観察を行い、その人に必要なケア方法の提供を行っております。また、足に合った靴や装具の選択も足を守るためには重要です。医師・看護師・理学療法士とが連携し、患者さんにより良いケアを提供していただける外来にしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。



津山中央病院フットケアチーム



足のトラブル  
見つけたら、  
フットケア外来  
担当看護師に  
コンサルテーション  
してください！！  
PHS (5073)  
場所：麻酔科外来

### 外国人受け入れ医療機関認証制度 (JMIP) に当院が認められました

H29.7.12付



通訳の配置や外国語表記の文書発行など、外国人患者に対応した医療機関を認証する一般財団法人・日本医療教育財団の「外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)」に、当院が認められました。岡山大学病院に次いで中四国地方で2ヶ所目となります。

当院では専門部署「国際医療支援センター」を院内に設置し、日本語の話せる中国人医師や事務スタッフも採用しております。

「津山を訪れた外国人患者に安全安心な医療サービスを提供し、人の流れが県北の活性化につながることも期待したい」と考えております。

7月7日(金)～8日(土)仙台国際センターにて、第19回日本医療マネジメント学会学術総会が開催されました。当院看護部においても演題発表を行いました。今後の看護業務に活かしてくれることを期待しています。

## 日本医療マネジメント学会に参加して

去る7月7～8日の2日間、仙台国際センターで第19回日本医療マネジメント学会学術集会在開催されました。私は7日の午後から「陽子線治療を受ける患児への取り組み」というテーマで口頭発表させて頂きました。

思い起こせば半年前、私の仙台行きが決まったのは、毎年恒例の院内QC活動報告会で発表した小児陽子線チームの取り組みが1位に選ばれた時でした。上位3部署にはもれなく、医療マネジメント学会で口頭発表する、という荣誉がついてきます。今年選ばれたのは3東(小児陽子線)、手術室(災害時訓練)、検査課(検体取り扱い)でした。6月の終わりに合同練習会があり、(1回でOKをもらうはずでしたが)3回の練習を経て洗練されたスライドを携えていざ仙台へ。特訓の甲斐があり、本番では自信を持って当院の取り組みをアピールすることができました。

私を仙台に連れて行ってくれた小児陽子線チームの取り組みは、今までに経験したことのない気持ち、そして小さな挑戦と気づきの積み重ねでした。この先もずっと、この貴重な経験をさせてくれた2人の患児と家族に対する感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

皆様には今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 3階東病棟:山本 加奈子



今回の研修の中で、社会人、新人の心構えについて講義を受けました。社会人としての研修についての講義ではどれも社会人として、人として大切なことだと感じました。忙しい中でもきちんとあいさつや当たり前のことを当たり前に行えるようになっていきたいです。

また、「人材・人材・人材・人罪」という言葉については、会社の財産になれるようになりたいと思うとともに、いっだけや罪になるようなことはあってはいけません。そのために、その道を極める努力をしていくことが必要だとわかりました。

学生の頃と違い、給料をもらって働いているからには、プロという意識を持って、チーム医療の一員としてチームに必要な人材になれるよう、頑張っていきたいと改めて感じました。

研修では他職種の方とたくさん交流することができ、とても楽しく過ごすことができ、普段知ることのできない職種の思いや大変さを改めて感じ、より一層連携の大切さを感じました。そして、医療人として、人として大切なことを学ぶことができました。この気づきをもってこれから日々の業務に努めたいです。



5階西病棟:田村・藤本

### 参加者の声

6月9日(金)～10日(土)において

### 『新採用者入職3ヶ月目研修』をエクスプレで実施しました

「光陰矢のごとし」入社して早くも3か月が経ちました。病棟で師長をはじめ、優しい先輩方々のご指導の元に毎日忙しく過ごしてきました。けれども、同じミスを繰り返して、成長が見えない日々で、自信をなくつつありました。自分がこの仕事に向いていないのではないかと戸惑っていたところに、師長の面接の後、新人の鳴門研修を迎えました。先輩よりこれを機に、気持ちを整理し、リフレッシュしてきてくださいとアドバイスをいただき、研修を楽しみにしていました。

研修では病院の管理職の方々より社会人としての心掛けやストレスの解消方法や自分をもっとよく知る視点と私の未来像の描き方などについて教えていただき、いい自己分析ができました。また、他職種の新人と交流ができ、チームワークがチームメンバーの間だけでなく、全病院で協力し合わなければならないとわかりました。

これからは感謝する気持ちを忘れずに、鳴門研修での学びを活かし、組織の一員で、社会人であることを自覚し、愛社精神を持ち、物と人を大事にし、笑顔を忘れず、報告・連絡・相談をタイミングよく行い、医療チームの一員としてふさわしい働き方に変え、未来像に描いた5年後の自分になれるように頑張りたいと思います。

6階東病棟:劉

## インターンシップ2017

2017年7月 1日	9:00～
2017年7月29日	9:00～
2017年8月18日	9:00～

上記の日程において、看護師および助産師の養成機関に在学中で平成30年3月に卒業予定の看護学生を対象とした『インターンシップ2017』を開催いたしました。

当院にて看護体験をすることにより、臨床現場の雰囲気を知る事を目的としており、下記の日程で開催いたしました。

9:00	集合・更衣案内
9:30～10:00	オリエンテーション
10:00～12:00	各部署での看護見学・体験
12:00～13:00	昼食(当院でご用意致します)
13:00～16:00	各部署での看護見学・体験
16:00～17:00	看護部での概要説明・質問
17:00～19:00	懇親会



懇親会の風景